



まち全体が学びの場になるように各学校では…

木山中学校

全校生徒数 261人

郷土を愛する人材の育成

木山中では、「郷土を愛する人になるために、今、学校運営協議会ができること」をテーマに、絵手紙を制作し年賀状として町内の高齢者に届ける活動や、学校運営協議会と生徒会ボランティア委員会の共催で、校庭と周辺道路の清掃活動を月1回のペースで実施。

また、職業体験学習で、地域の人や企業の人に面接官になってもらい、生徒が緊張感を持って自分の考えを振り返る体験を実施しました。



益城中学校

全校生徒数 813人

自ら考え行動する人材の育成

益城中では、「地域への感謝、地域とのつながり」をテーマに、生徒が考える地域との関わり方を形にしています。生徒の主体性が育まれ、自ら地域とつながろうとする生徒の育成につながっています。

生徒会執行部が学校運営協議会のメンバーとしてさまざまな意見を出しており、最初に形にしたのが地域の人たちと行う惣領神社の清掃活動でした。そこから、小学校でのあいさつ運動や子ども民生委員としての高齢者宅訪問、現役大学生を招いての学習会などの活動へと広がっています。



【益城中と木山中の新たな交流】

合同あいさつ運動

益城中と木山中とのオンライン交流会(広報ましき令和3年11月号まちなかPick UP! 参照)で、生徒たちが自ら企画した「合同あいさつ運動」。**生徒会役員が互いの学校に出張し、あいさつ運動を展開。**町内2つの中学校の新たな交流となりました。



オンライン交流会のようす (左)木山中(右)益城中

